

妙音品三箇の大事

第一 妙音菩薩の事

御義口伝に云はく、妙音菩薩とは十界の衆生なり。妙とは不思議なり、音とは一切衆生の吐く処の語言音声、妙法の音声なり、三世常住の妙音なり。所用に随って諸事を弁ずるは慈悲なり、是を菩薩と云ふなり。又云はく、妙音とは今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉る事、末法当今の不思議音声なり。其の故は煩惱即菩提・生死即涅槃の妙音なり。

第二 肉髻白毫の事

御義口伝に云はく、此の二つの相好は孝順師長より起これり。法華經を持ち奉るを以て一切の孝養の最頂とせり。又云はく、此の白毫とは父の淫なり、肉髻とは母の淫なり。赤白二滌今の經に来たつて肉髻・白毫相と顯はれたり。又云はく、肉髻は隨縁真如の智なり、白毫は不變真如の理なり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉るは是等の相好を具足するなり。我等が生のはじめは赤色なり肉髻なり、死して後の白骨は白毫の相なり。生のはじめの赤色は隨縁真如の智、死して後の白骨は不變真如の理なり。秘すべし秘すべし。

第三 八万四千七宝鉢の事

御義口伝に云はく、此の文は妙音菩薩雲雷音王仏に奉る処の供養の鉢なり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉る者は、八万四千の鉢を三世の諸仏に供養し奉るなり。八万四千とは我等が八万四千の塵勞なり。塵勞を南無妙法蓮華經と唱へ奉る処を八万四千の法門と顯はるゝなり。法華經の文字は開結二經を合して八万四千なり云云。又云はく、八とは八苦なり、四とは生老病死なり、七宝とは頭上の七穴なり、鉢とは智器なり。妙法の智水を受持するを以て鉢とは心得べきなり云云。